

関東甲信越静社会教育研究大会が神奈川県で開催され、 当町の社会教育委員が事例発表を行いました！

当町の社会教育委員会議は8名で構成（定員は12名）されており、委員一人一人が生涯学習の実践者として、公民館や図書館等の社会教育施設で展開されている事業の現場に赴き、準備に携わったり、事業当日の様子を見聞きたりしています。そして、青少年教育・成人教育・家庭教育等の事業が効果的な事業となっているかを評価して提言を行うなど、より良い事業とするための努力を続けています。

今年度は1都9県の社会教育委員が一堂に会し、これからの社会教育について何ができるのか、何を担うべきなのかを考える関東甲信越静社会教育研究大会が神奈川県で開催され、当町の社会教育委員の皆さんが日ごろの活動の成果を発表しました。その内容を紹介します。

【発表の概要】

社会教育・生涯学習事業を展開するうえで、当町は面積も狭く人口も少ないことから、地域資源に乏しく、交流が限定的などの多くの弱みを抱えながら、その弱みを社会教育委員の提言により強みに変えてきた実績を発表しました。

① 地域資源の活用

公民館開館当初から子どもたちを対象にした「子ども陶芸教室」を開催していましたが、社会教育委員の提言により町民文化祭に出品することで、多くの方々に子どもたちの自由な発想による作品を観ていただく機会としたことを紹介しました。（他2事例）

② 他市町との相互交流

当町にはない田んぼや湖での体験機会を設けるために開成町へ出向いての農業体験や清川村の協力を得た力又一体験を実施する等して、体験の幅を広げる努力をしてきましたが、今年度より社会教育委員の提言により箱根町を訪問して森の観察会を実施し、さらに体験の幅を広げる取り組みを展開していることを紹介しました。（他1事例）



③ 土曜日に小学6年生が地域の方々と国語や算数、英語の学習を行っている「まなづる土曜教室」では、後輩のために漢字の問題集を作成しています。せっかくだからと介護予防教室でも活用すべきとの社会教育委員の提言を採用し、3年前から実施していることを紹介しました。（他3事例）



大会に参加された他自治体の社会教育委員の皆様から「社会教育委員がこれほど動くのかと驚いている。」といった感想が聞かれました。当町の社会教育委員の活動は小さな自治体だからこそできる特徴的な活動と考えています。教育委員会としては、これからも社会教育委員の皆様と力を合わせ、事業をよりよいものとするための努力を続けてまいります。



子育て学級

子育て学級は、真鶴町在住の保護者や子育てに感心のある方に役立つ情報や交流の場を提供することを目的に、企画・運営しています。2025年度については、「リトミック」や「キッズボイトレーニング」の体験講座や「親子での防災に関する講演」を開催しました。

体験講座：「親子で楽しくリトミック」9月7日(日)、
「親子で楽しくリトミック&キッズボイトレ」2月14日(土)

講師：KASUMI先生(PAUL STAR MUSIC 合同会社)

例年開催をしている親子でリズムにのって楽しく体を動かすことができる「リトミック」の講座を9月と2月に開催し、2月には体だけでなく、発声をすることで心も一緒にリフレッシュできる「キッズボイトレ」を新たに加えて開催をしました。



講座の最初は恥ずかしそうに保護者の後ろや足にしがみついていた子どもたちも、音楽が流れ、周りが踊っている姿を真似して、最後にはみんなで楽しく笑顔でダンスをしていました。「リトミック」の講座の中では、ただ楽しくダンスするだけでなく、正しい姿勢維持を助ける体操を教わり、「キッズボイトレ」では、息を吹くといった動作を練習する遊びを教わりました。

〈参加者の声〉

- ・初めての参加でしたが、1時間楽しく踊っていました。
- ・ロコモ体操がとても楽しかった。親子で楽しく身体を動かすことができました。
- ・いろいろな年のお友だちとダンスが出来て、子どもにとっても刺激になりました。



講演会：「親子で防災」12月7日(日) 講師：宮丸先生(NPO 法人 M-plug)

大雨や地震などの災害が発生した際に子どもと一緒にどうすればよいのか、何が必要になるのか等について実際の防災グッズも見ながら学ぶことができる講演会でした。子育て学級として「防災」をテーマに講演会を開催するのは初めてであり、「家族での防災」について学ぶ貴重な機会となりました。保護者の皆さんも、地震発生時の身の守り方など、先生の話真剣な面持ちで聞いていました。

〈参加者の声〉

- ・防災は必要とわかってはいたながらも後回しになっていたので、参加できてよかったです。
- ・防災意識を高めるよい機会となりました。
- ・災害時に子どもに起きる変化(メンタル)などを知れてよかったです。子どもと一緒にクイズに参加し、楽しく学ぶことができました。



新しい社会体育事業を模索するために ニュースポーツ体験会を開催しました

町では春に町民ソフトバレーボール大会を開催していましたが、運動強度が高く、参加者が集められないとの声を多くいただいていたことから、運動強度が軽く、誰もが親しめるスポーツ競技をめざして、6月1日(日)にニュースポーツ体験会を開催しました。体験会には自治会連合会教育体育部会や体育部長会を中心に31名の方々にご参加をいただき、フライングディスクとグラウンドゴルフの2種目を体験していただきました。

○フライングディスク

5m先のリング状のゴールに向かってディスクを10投し、ゴール内を通過した回数を競うアキュラシーと投げたディスクの飛行距離を争うディスタンスの2種目がありますが、今回はアキュラシーを体験していただきました。

スポーツ推進委員の皆さんに丁寧にルール説明や競技指導をしていただきました。最初は距離感に苦戦する方もいましたが、慣れてくると10投すべてをリング内に投げ込む競技者の姿も見られました。



○グラウンドゴルフ

専用のクラブでボールを打ちホールポストに入れる打数を競う競技で、当町でもゆめクラブの皆さんを中心に多くの方々が親しまれています。

真鶴町スポーツ協会のグラウンドゴルフ部の皆さんにご協力いただき、ルール説明と審判を務めていただきました。参加者の皆様は「思ったより全身を使う!」「ボールを打つ時の力の入れ具合が難しい!」「歩きながらの運動がちょうどいい!」と笑顔で競技を楽しまれていました。

○ 2026年度はフライングディスク大会を開催します。

体験会を経て自治会連合会教育体育部会並びに体育部長会で協議を行い、2026年度の春にはフライングディスク大会の開催を決定しました。多くの町民の皆様にご参加いただき、日ごろの健康増進に役立てていただいたり、親睦を深めていただいたりする機会にしたいと考えています。町でも大会に向けて競技物品を新たに購入しましたので、体験したいという方は教育委員会までご連絡ください。

また、秋にはグラウンドゴルフ大会の開催も考えています。こちらも詳細が決定次第、町広報等でお知らせいたしますので、楽しみにお待ちください。

今回の体験会の開催に際し、多大なご協力をいただきましたスポーツ推進委員、スポーツ協会グラウンドゴルフ部のさんには、この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





成人学級



成人学級は、暮らしに生きる知識と教養を高める契機として、自治会連合会教育体育部会や生涯学習実践委員の皆さんからご意見をいただき、内容等を決めています。2025年度は「真鶴の文化を学び、活気あふれる未来をつくろう！」をテーマに前後期各2講座の計4講座を開設しました。今回は、後期第2回の講座「史料で読み解く源頼朝と真鶴」で講師を務めた永見達也学芸員に自己紹介を兼ねて講座の内容を執筆してもらいました。

後期第2回講座〔11/22(土)〕 53名参加

私は、真鶴町教育委員会に昨年の4月に文化財担当の学芸員として配属された、永見達也（ながみだつや）です。この度、後期第2回講座の講師として、「史料で読み解く源頼朝と真鶴」というテーマで登壇させていただきました。皆さんもご存知のように、真鶴町は源頼朝ゆかりの町であり、岩海岸、鷗窟など多くの頼朝関係の史跡があります。この講座では、私の専門分野である歴史学という視点から、中世（平安末期～戦国時代）に作成された史料を読み解いて、真鶴町と頼朝の歴史について考察しました。



本講座では、主に頼朝の船出地について史料から検討を行ったり、これまで真鶴町で知られていなかった『建久二年記』（けんきゅうにねんき）と呼ばれる新史料も紹介したりしました。この史料には、頼朝が家臣である佐々木定綱に宛てた手紙が掲載されており、石橋山合戦に負けた頼朝が、「真鶴の海を渡った時は心細かった」と、頼朝の心情が記されています。この史料は、近年の研究で頼朝が実際に発給した可能性が高いとされており、頼朝自身が「真鶴」に言及した唯一の史料になります。

頼朝の船出地については、今後も検討が必要ですが、真鶴町から安房国へ渡海したことには変わりません。こうした真鶴町と頼朝の歴史は、江戸時代以降に多くの伝承を生み出しますが、史実と伝承を一緒にたにせず、どちらも大切にしながら町の歴史を再確認していきたいと思

います。

講座の最後には、鷗窟や真鶴三名字のことにについて質問や多くの感想・意見をいただきました。今回の講座では中世の史料を中心に取り上げたので、鷗窟や真鶴三名字、その他多くの頼朝伝承については、また続編的な講座を開催したいと考えております。

